



一般財団法人

函館国際水産・海洋都市推進機構

Newsletter

第33号 2014年11月20日

機構の活動

平成26年10月から
平成26年11月まで



はこだてカルチャーナイト2014 開催

H26.10.03

はこだてカルチャーナイト実行委員会主催により、「はこだてカルチャーナイト2014」が開催されました。文化・教育施設、民間施設を夜間開放し、家族そろって地域の文化に触れる本イベントに、当機構は函館市国際水産・海洋総合研究センターを会場として、「海藻おしば教室」「海藻万華鏡体験」(実施：海藻おしばサークル)、科学演劇「夢見るイルカ」(実施：函館工業高等専門学校演劇愛好会)、写真展「豊かな海の生きものたち」そして、北海道大学水産学部の学生の協力により、海の生物に直接触れることのできるタッチプールを開催しました。



タッチプール



車両展示

また、同研究センターの敷地内において、北海道開発局函館開発建設部による除雪機械・災害対策用機械の車両展示と函館新外環状道路パネル展示、また、自衛隊函館地方協力本部によるミニ制服試着・写真撮影と南極の水展示、DVD上映、さらに陸上自衛隊函館駐屯地第28普通科連隊による軽装甲機動車、高機動車、96式装輪装甲車の車両展示が開催されました。当日は、921名の方が来場し、盛況のうちに終了しました。

AQUA SOCIAL FES!! 2014

「海藻アート制作を通して、海の環境保全を考えよう！」 主催

H26.11.08

AQUA SOCIAL FES!! 2014を、函館市国際水産・海洋総合研究センターを会場として開催しました。

本イベントは、トヨタ自動車㈱が全国の地方新聞社等と連携し、水辺の自然環境を守ることを目的として各地で開催されています。今回は北海道新聞社のご協力のもと、当機構の主催により、函館近海で採れる海藻の生態を、講演と海藻おしばアートづくりを通じて学ぶことで函館の海の環境保全について考えていただくことを目的に開催しました。



海藻おしばアートづくり

最初に、北海道大学水産学部 阿部拓三助教から「カラフルな海藻の不思議と地球環境」と題した講演が行われ、海藻に関する知識を深めた後、海藻おしばサークルのメンバーによる指導のもと、「海藻おしばアートづくり」が行われました。約50名の参加者があり、9種類の海藻の中から好みの海藻を選んで、思い思いにデザインしながら、海藻おしば作品づくりを楽しみました。



講義の様子

函館市国際水産・海洋総合研究センターにおいて、市立函館高校が行う「函館学」の中心的な学習項目である「元町巡検」を開催しました。同科目は、同高校の生徒が、函館の持つ歴史や風土、特質を知り、実際に現地で巡検を行うことで、郷土函館についてより理解を深めることを目的とした同校独自の必修科目です。

当日は、北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 山本潤助教から「スルメイカ入門」と題し、知っているようで実は知らない驚きのイカの体の仕組みや生態についての講義が行われました。その後、実際にイカを解剖して、講義で学んだイカの体の仕組みについて確認し、参加した生徒たちは驚きの声をあげていました。このような取り組みが、地域の高校生が函館に対して理解を深め愛着を感じる一助となることを期待します。

当日は、北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 山本潤助教から「スルメイカ入門」と題し、知っているようで実は知らない驚きのイカの体

岩手大学教育学部附属小学校学習旅行における体験活動 実施

H26.10.16

函館市国際水産・海洋総合研究センターにおいて、岩手大学教育学部附属小学校の学習旅行における体験活動を実施しました。同活動は、「なぜ、函館はたくさんの人に愛されるのか」というテーマのもと、学習旅行で函館についての追及活動を行うもので、「街の魅力だけではなく、それを支える人たちの思いや願いがそこにあるのではないか」との予想をたてて事前学習をした同校の6年生5名が、同研究センターを訪れました。



当日の様子

当日は、当機構職員から、函館国際水産・海洋都市構想とセンターの概要について説明を受けた後、函館がごめ連合会長である(株)ノース技研 布村重樹代表取締役社長より、がごめ昆布のブランド化への取り組みについての話を聞くと共に、実際にがごめ昆布を触ってもらう体験を行い、生徒たちはそのネバネバ感に感嘆の声をあげていました。

函館市立日新中学校職場体験 実施

H26.10.23



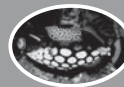
当日の様子

共和コンクリート(株)海藻技術研究所アルガテック kyowaにおいて、函館市立日新中学校の職場体験を実施しました。「将来は漁師になりたい」という同校2年生の男子生徒1名が来所し、同社の川越力主任研究員からの説明により、同研究所の研究内容、コンブ類の形態・部位名称や分布、そしてコンブの生活史や遊走子(水中を遊泳する0.01mmの胞子)の動きについて学びました。

その後、実際にマコンブから放出された遊走子を顕微鏡で確認するなどして、種苗生産の一端を体験しました。そして後日、同生徒から、貴重な体験ができたことへの感謝の気持ちが記された丁寧な礼状が届きました。このような職場体験学習によって、一人でも多くの生徒が、将来の進路や職業について真剣に考えるきっかけとなることを期待します。

地域の活動

平成 26 年 10 月から
平成 26 年 11 月まで



第 10 回バイオリギング研究会シンポジウム 開催

H26.10.10-11



シンポジウムの様子

函館市国際水産・海洋総合研究センターにおいて、日本バイオリギング研究会主催による「第 10 回バイオリギング研究会シンポジウム 魚群を追う-From individuals to schools and populations-」が 2 日間にわたり開催され、約 120 名の参加がありました。

バイオリギング研究とは、野生動物に小型の記録計やビデオカメラなどを取り付けて様々な生物の生態などを計測する新しい研究領域のことで、1 日目には、北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 宮下和士教授

の他 5 名の方によりバイオリギング研究の成果等についての講演と、ポスター発表が行われました。

2 日目には、午前中にワークショップ、午後からは、一般市民へも公開されたセミナーが行われ、「ペンギンとマグロとクジラの最新科学」と題して、国立極地研究所 渡辺佑基助教による講演が行われ、バイオリギング手法を利用した、普段見ることができない海洋動物の生態が紹介されました。

講演会「マリンサイエンスが拓く未来」 開催

H26.10.16

函館市国際水産・海洋総合研究センターにおいて、公益社団法人日本技術士会北海道本部北方海域技術研究委員会・道南技術士委員会の主催により、講演会「マリンサイエンスが拓く未来」が開催されました。

最初に、公立はこだて未来大学システム情報科学部 マリン IT・ラボ 和田雅昭所長、道総研函館水産試験場 佐藤政俊研究職員、道南技術士委員会 布村重樹代表より、各々が取り組んでいる研究成果等について講演が行われました。その後、北方海域技術研究委員会 橋本孝治幹事長が進行役となりパネルディスカッションが行われ、道南の水産業、海洋産業の今後の展望について提言があるなど、活発な情報交換が行われました。当日は約 80 名の参加者があり、盛況のうちに終了しました。



パネルディスカッションの様子

函館市地域資源ビジネスマッチング事業 開催

H26.10.17



基調講演の様子

「日本政策金融公庫千住支店 千十会」（参加企業 17 社）の函館視察研修会にあわせて、学術研究機関と共に函館地域のモノづくりの PR を行い、視察企業との交流を図ることで、新たなビジネスネットワークの構築を推進することを目的に、函館国際ホテルにて「函館市地域資源ビジネスマッチング事業」が開催されました。

当日は基調講演として、公立はこだて未来大学メタ学習センター 大塚裕子准教授より「酒とコミュニケーションがつくる新たなビジネス」と題し、日本酒の味わい表現とコミュニケーションの分析による新たなビジネスの可能性について講演が行われました。

講演後の名刺交換・交流会では、「日本政策金融公庫千住支店 千十会」の参加企業と、講師および地元企業など様々な方が名刺交換を行い、懇親を深める機会となりました。

漁業協同組合と

国際水産・海洋総合研究センター入居団体との意見交換会 開催

H26.10.27

函館市国際水産・海洋総合研究センターにおいて、道南渡島地区の漁業関係者と同研究センター入居団体との意見交換会を開催しました。

最初に、函館市 工藤壽樹市長より、漁業現場で生じている課題について、研究機関と漁業者が解決策を検討し地域の将来につなげていきたいと挨拶があり、その後、入居機関である、道総研函館水産試験場、北海道大学大学院水産科学研究院、北海道大学北方生物圏フィールド科学センター、公立ほこだて未来大学、そして民間企業から、(株)エコニクス、共和コンクリート工業(株)、(株)グリーン&ライフ・イノベーション、(株)ソニック、(株)鉄山協和組の5社が各々が取り組む研究内容について発表を行いました。

当日は、関係者約70名が参加し、同センターを中心に、水産・海洋に関する研究の成果を漁業者へ還元し漁業振興を図るべく意見を交わし、大変有意義な情報交換の場となりました。

第13回北海道生物科学研究会シンポジウム

函館の海から ー水産・海洋生物研究の世界ー 開催

H26.10.31



シンポジウムの様子

函館市国際水産・海洋総合研究センターにおいて、北海道海洋生物科学研究会主催によるシンポジウムが開催されました。

最初に、当機構の伏谷伸宏推進機構長より世話役としての挨拶があり、その後、共和コンクリート工業(株)海藻技術研究所北山進一所長より「幼体移植式藻場造成法（モアシス）の開発について」、道総研函館水産試験場 渡野邊雅道主査より「北海道周辺の海洋環境と漁場形成」について、北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 宮下和士教授より「最近のバイオリギング研究」について、最後に北海道大学大学院水産科学研究院 五嶋聖治教授より「温暖化とマナモコの夏眠」について講演が行われ、約60名の参加者がありました。

シンポジウム後には、同研究センターエントランスホールにて交歓会も行われ、シンポジウムと併せて活発な情報交換の場となりました。

イベント情報

平成26年度日本水産学会北海道支部大会

日時：平成26年12月19日（金）13：30～18：00（18：30～公歓会）

20日（土） 9：00～18：30

場所：函館市国際水産・海洋総合研究センター大会議室（函館市弁天町20番5号）

12月20日（土）13：00～18：30 公開シンポジウム～一般公開

13：00	開会	16：00～	3) ホタテガイ・ナマコの生産状況、 利活用等今後の取り組み
13：10～	1) イカ資源の現状・加工・流通	17：30～	4) 総合討論
14：25～	2) コンプの生産量・加工技術・ 付加価値化	18：30	閉会

お問い合わせ

〒041-8611 函館市港町3丁目1-1 北海道大学大学院水産科学研究院
平成26年度日本水産学会北海道支部大会事務担当 桒澤尚範氏
Tel.0138-40-5566 E-mail: nozawa@fish.hokudai.ac.jp

お知らせ

函館市国際水産・海洋総合研究センターからのお知らせ

＜年末年始の開館状況について＞

年末年始の開館については以下の通りとさせていただきますのでご了承ください。

休館日 平成26年12月27日（土）～平成27年1月4日（日）

年始開館日 平成27年1月5日（月）～



発行：一般財団法人 函館国際水産・海洋都市推進機構

〒040-0051 北海道函館市弁天町20番5号

函館市国際水産・海洋総合研究センター内

TEL：0138-21-4700 FAX：0138-21-4601

URL: <http://www.marine-hakodate.jp/> E-mail: office@marine-hakodate.jp

